

### 3.4 注目すべき種の分布状況

近年、園芸用に輸入された種や、飼料穀物に紛れ込んだ種子による自然界への逸出などに伴い、本来は日本に生息しない国外の生物種が侵入し、自然界へ広がっている例が数多くみられます。

このような人の活動に伴う生物の移動による、国外外来種（シナダレスズメガヤなど）の逸出・定着によって絶滅危惧種（カワラノギクなど）の生育場所が奪われるなどの影響が懸念されています。また、外来種と在来種の交雑によって雑種が形成され、地域で保有されていた固有な遺伝子の喪失が懸念されています。

ここでは、河川への国外外来種の侵入状況を明らかにするため、国外外来種の確認状況について整理しました。

#### 【国外外来種の河川への侵入状況】

(植物調査、河川環境基図作成調査)

##### ● 河川水辺の国勢調査における新規確認の国外外来植物は 21 種を確認

平成 26 年度河川水辺の国勢調査において、アマゾンチカガミ、バイモ、ヒガタアシ等、21 種の国外外来種を初めて確認しました。これらの種の導入目的を緑化用、耕作地雑草、牧草用、園芸用、その他に分けて整理しました。その中で、園芸目的で栽培されていたものが逸出したと考えられる種は、アマゾンチカガミ、セイヨウミズユキノシタ等の 10 種でした。

(資料掲載： 3-106 ページ)

河川区域において、シナダレスズメガヤやハリエンジュなど、多くの国外外来種がみられるようになり、生態系への影響が懸念されています。

ここでは、河川区域への国外外来種の侵入状況を把握するため、導入目的を緑化用、耕作地雑草、牧草用、園芸用、その他に分けて整理しました。

今回とりまとめを行った 27 河川で、484 種の国外外来種が確認されました。そのうち、アマゾンチカガミ、バイモ、ヒガタアシ等、21 種の国外外来種を初めて確認しました。地方別にみると、関東地方 8 種、北陸地方 5 種、北海道及び九州地方 4 種、東北地方及び近畿地方 1 種となっています。

これらの 21 種のうち、園芸目的で栽培されていたものが逸出したと考えられる種は、アマゾンチカガミ、セイヨウミズユキノシタ等の 10 種でした。

新規確認の国外外来種の利用区分

No.	科名	種和名	地方	確認河川	利用区分*
1	アカウキクサ科	外来アブラ類	関東 近畿	多摩川 九頭竜川	その他（不明）
2	モクレン科	キモクレン	九州	白川	園芸用
3	ドクダミ科	アメリカハンゲショウ	関東	多摩川	園芸用
4	バラ科	<i>Potentilla collina</i>	北海道	十勝川	その他（不明）
5	マメ科	クマノアシツメクサ	北海道	天塩川	園芸用
6	アカバナ科	セイヨウミズユキノシタ	関東	多摩川	園芸用
7	シソ科	コバノカキドオシ	北海道	天塩川 常呂川	その他（不明）
8		ハナハッカ	東北	最上川	園芸用
9	ナス科	アカミノイヌホオズキ	北陸	信濃川	その他（不明）
10	ゴマノハグサ科	キバナウンラン	北陸	信濃川	園芸用
11	スイカズラ科	セッコウボク	北海道	天塩川	園芸用
12	キク科	セイヨウノコギリソウモドキ	関東	多摩川	その他（不明）
13		フトエバラモンギク	北陸	信濃川	その他（不明）
14	トチカガミ科	アマゾントチカガミ	九州	嘉瀬川	園芸用
15		コウガイセキショウモ	九州	遠賀川	園芸用
16	ユリ科	バイモ	関東	久慈川	その他（不明）
17	イネ科	カモノハシガヤ	関東	多摩川	その他（不明）
18		ノハラカゼクサ	関東	多摩川、 相模川	その他（不明）
19		オオムギクサ	関東、 北陸	多摩川、 信濃川	その他（不明）
20		キッコウチク	北陸	信濃川	園芸用
21		ヒガタアシ	九州	白川	その他（不明）
計	14 科	21 種	6 地方	12 河川	2 型

注 1) 利用区分については以下の文献を参考にした。

- 世界の雑草Ⅱ 離弁花類 全国農村教育協会 平成 5 年
- 新牧野日本植物圖鑑 北陸館 平成 20 年
- 日本の帰化植物 平凡社 平成 15 年
- 日本帰化植物写真図鑑 全国農村教育協会 平成 22 年
- 日本帰化植物写真図鑑第 2 巻 全国農村教育協会 平成 22 年
- 原色園芸植物大図鑑 北陸館 昭和 59 年
- 神奈川県植物誌 2001 神奈川県立生命の星・地球博物館 平成 13 年
- ネイチャーガイド日本の水草 文一総合出版 平成 26 年

注 2) その他（不明）については、上記文献に記載があったものの、利用について明記されていなかったものである。